

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

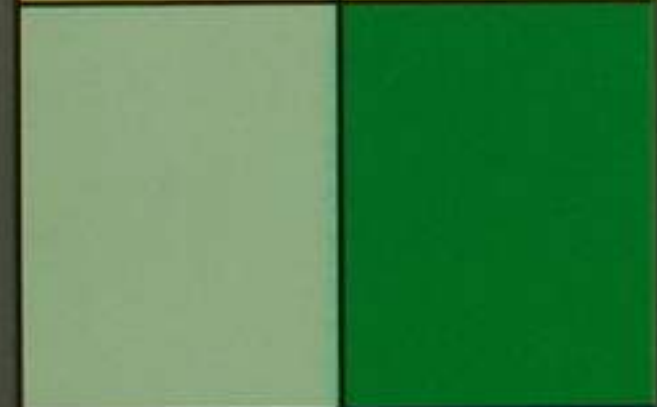
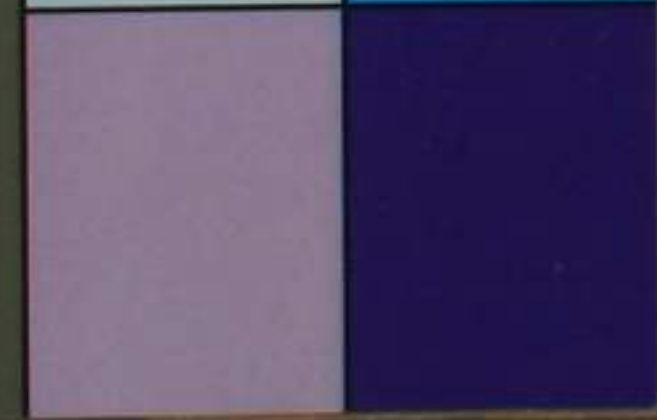
Red

Magenta

White

3/Color

Black



A 1 2 3 4 5 6

M 8

10 11 12

13 14 15

B 17 18 19



199  
5

新編 解脫 物 澤 五

199  
5



於  
199  
5

新撰解脫物語 卷之五

東都

曲亭馬琴筆條

第九

人面瘡氣を吹く 葶績自殺を

地藏井現化 烏有初と顕る

婦人小常の善悪 只妬よとて 百邪を生むと宣るるをさても葶績の

与ちあつが妻とありしより。ふさす昔小ますまるともつ信ず小齊眉りれど

夫もらどれこととのものと小惑ひく。志を移しこれ後まの怜れり小ん

子もくかりよりるの思ひ忘れ。夫婦の睦し更よはへらもあふん加補

女見さくハ既小四才の春をむく。暑く寒く成らるるに於るれば。これを愛

慈むる世の殊も勝る。けふとの面影は父は消ゆるとも。又母は消ゆるとも

あつらるるべしやうねられ。外に節より出りし。赤衣姫の童もあつらるる

行日 新撰解脫物語 卷之五





小目もに飾りて。髪長す小生るが。女の面影小異るる。と。右左のあま  
 小浅す。と。つら。と。うらま。り。り。世ふり人面瘡あるべ。これ。は。思  
 寺村小到。と。旧男小。と。し。や。ん。は。所。方。よく。田。中。あ。あ。と。い。ひ。り。て。直。小。清。三  
 麻。が。家。小。走。り。ゆ。れ。縁。由。成。物。ご。と。ま。げ。清。三。郎。夫。婦。ち。よ。終。つ。た。と。右。左。の  
 と。も。心。慌。し。く。羽。生。村。小。来。ま。り。り。さ。る。は。は。彼。此。の。老。弱。ら。の。と。何。せ。く。  
 ら。れ。も。と。与。右。左。の。が。家。小。集。合。し。り。後。と。て。来。る。り。の。不。と。は。は。は。小。五。在  
 或。の。紙。窓。小。孔。を。穿。或。の。壁。の。隙。小。面。を。さ。り。著。く。外。の。方。より。と。ま。を  
 と。ら。と。の。と。は。清。三。郎。の。孫。が。人。面。瘡。と。と。え。か。つ。え。と。の。妻。小。り。り。り。り。の。身  
 何。と。う。と。い。あ。か。の。瘡。の。面。影。の。よ。丸。歩。つ。が。前。妻。あり。珠。雞。子。似。る。小。あ。り  
 ち。よ。と。い。ひ。も。果。れ。小。人。面。瘡。の。信。り。人。の。と。う。可。と。う。ら。笑。ひ。く。が。を。れ。清。三  
 郎。と。れ。は。は。も。恨。る。た。よ。め。と。む。と。う。夫。婦。玉。芝。小。と。ち。ま。と。い。飽。け。で

強顔。小。堪。う。れ。く。遂。ま。る。影。を。隠。る。成。ち。り。あ。が。伊。阿。容。と。と。媒。し  
 彼。ホ。は。縁。一。結。と。う。へ。も。つ。あ。る。ら。ど。や。伊。親。族。の。信。を。か。り。つ。る。と。う  
 一言。の。諫。言。え。さ。る。原。と。丸。歩。の。誓。言。し。く。八。石。目。の。田。圃。が。父。の。賜。あ。る  
 と。伊。久。く。管。領。り。因。て。一。と。び。の。怨。を。復。さん。と。思。ひ。り。と。折。を。は。ご。ま。の  
 二十。餘。年。徒。小。過。り。と。え。よ。今。伊。が。孫。を。悩。し。又。伊。が。女。兒。と。昔。の。う。ら。り。恥  
 ら。せ。く。後。悉。く。殺。さん。と。す。り。い。あ。と。あ。る。が。答。へ。し。り。や。り。り。と。罵。る。声  
 の。珠。雞。小。あ。ち。り。も。違。ね。ば。清。三。郎。の。あ。ち。り。と。妻。も。只。願。怕。れ。し。と。い  
 う。人。の。後。小。解。ま。る。り。子。ち。出。つ。い。の。故。を。ま。り。さ。り。り。り。り。り。り。不。由。と。平。憤  
 と。も。小。清。三。郎。が。袖。を。引。く。今。人。面。瘡。の。物。の。を。こ。う。と。笑。へ。か。つ。た。因。縁。あ。り  
 う。と。お。ぼ。し。と。も。玉。芝。と。い。ひ。の。人。も。や。ま。り。り。り。り。り。り。清。三。郎。止。ま。り  
 ぐ。の。り。り。諱。は。助。め。れ。ば。遂。小。目。身。の。告。ご。り。た。彼。玉。芝。の。元。と。管。領。家。の

新撰解州物言部

浪人小松戸下とのつりめく女児ありしが。此この故ありき。母上の旅路  
 病死し。玉芝の累が父と尤出づが家小娘をふる小と尤出づ密に相  
 詰りひく。前妻珠雞を追ひうらひぬ。その後又うらひのありき。玉芝  
 が西入玄冬と走りく。亦と尤出づ。その仇を復さんとて。武藏のこ  
 赴死宿志をなす。遂に帰る。前夜累が火傷して生れもけぬ  
 醜女とありし。一五十一歳説示。右出づややく。常以礮と打。是は物  
 因縁のありき。よ。玄冬玉芝の父母。今の因果は小の首  
 尾をゆえはべし。玄冬が淨淵寺小寓居し。名を権と丞と更ぬ。十  
 葉惟胤の息女田系姫小出られ。彼家小仕し。又玉芝の権と丞小芝  
 くら。千葉家小給事。田系姫往方あり。後権と丞が嫡妻と  
 了。その後十六年とす。墨田川に枉死し。或は幼死す。或は面

わたりつる。雷は物。今將か。亦累以妻とす。父が田系姫を追う。報く。ゆりんと。ひひあ。小志。平績と  
 縁。結び。禍を醸。も。いと。悔。歎。け。ほと。近  
 御人。この物。成り。れ。され。積。悪。の。餘。映。の。く。の。小。報。ひ。た  
 是。を。る。べ。し。と。私。語。あ。小。清。三。高。夫。婦。の。物。の。お。ま。り。と。て。さ。が。く。回。答。も。ん。  
 平績ハ印幡が。影護。て。惘。然。と。く。居。る。時。も。沙。平。の。の。ゆ。り  
 遙く。喘。く。走。り。来。つ。群。ら。た。る。門。方。の。人。を。う。た。え。て。裡。小。入。り。と。ち。ま  
 小。對。し。つ。る。僕。も。く。と。た。あ。る。醫。師。小。ゆ。る。と。あ。り。の。く。人。面。蒼。を。患。む  
 の。の。り。の。の。の。瘡。飲。食。す。る。の。人。の。と。て。面。計。す。れ。も。信。せ。る。ま。は。返。す。  
 種。の。茶。劑。を。り。く。その。小。沃。死。入。り。小。悉。く。これ。を。尊。只。貝。母。小。至。て。は。さ  
 針。く。受。む。遂。小。貝。母。汝。は。だ。う。けて。立。比。小。愈。り。と。を。と。り。今。彼。女。の。小







今はあし  
若し  
人面  
とるも  
身は

この面  
かた面

竹の子は切らぬ

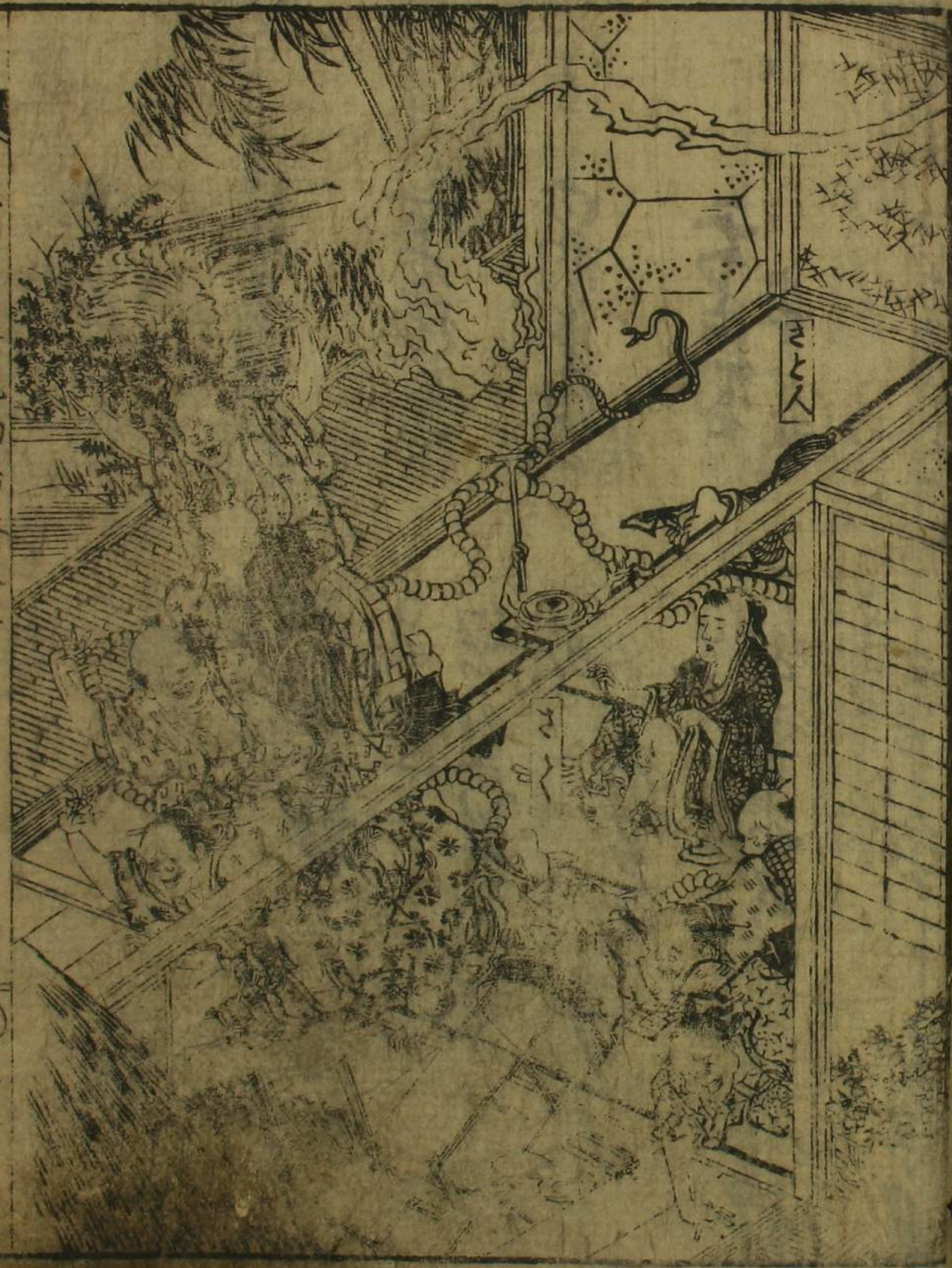


身は切らぬ





行目六解危勿百...



まとい



新馬角...

清之妻

清之郎

与右衛門





新田平解流物五卷之三



与右



黄泉乃

新田平解流物五卷之三

師答く。知すや彼ホの母王芝妻の苧績あり。凡夫のれが智小成心これ  
生る日の地獄と云ふも驚くべし。死後のもるは疑ひく。地獄の説を信と  
すべ。この故。二六時中。悪業よ超過。冥罰遂小脱をく。夫家を変ひ  
妻よ小別也。道路よ餓雨露小をばら。この苦辛を重るりの。生るこの  
地獄あり。その罪よは滅す。小足らざる。或入市よ棄られ。木よ梟られ。え  
るる死跡を吊りのあり。生と死よ地獄あり。死と生よ地獄あり。親族妻よ  
既生るとは小地獄あり。死後よはかりあり。生るも死るも親族妻よ  
悉く。彼姐よ載るるとあり。脱るるとを死と云ふ。小を死よ悲く。救  
徴ると志す。されば法師志を一身思ふ。罪小軽重あり。罰も厚薄あり。り  
叩首懺悔。弘経寺の鳥有小園。幸よ。免るるとあり。努懈ると  
るれと示。あめその言い。終ら。野寺の晚鐘松。風小音。地

獄の鐵城も忽地小う。法師もえをまよりあり。鳥の死ひとく。地  
藏寺の墓原る。草の中を。卧る。あまりの不思。佛と云ふ  
の昔御人ホが社を結。珠雞が菩提の乃小建。石の地藏尊  
の面影。嚮の法師よ肖る。れ。その佛の現化。あめ。こと  
小。感涙をとら。家よ。姑小あり。と物。る  
は。三昂夫婦。且悲。且。懺悔の乃。縁由。山隣。小  
ひ。餓。弘経寺。鳥有和尚。を招待。濟度と。  
く。顧。得脱。當。金。と。  
第十  
刀を洗。女僧行者。折く  
法。冤魂。解脱。得る  
鳥有和尚。道高。當時。無双の聖僧。小。光を。名

新編 解脫物語 卷之五



利小走らす。武藏國浅草なる浄圃寺小寓居。ころびて後、  
 く又弘経寺小ゆるみひびく。其処も住まひ。故郷るればとて近江路  
 小越片田のほらり小出た菴と締ひ行ひまきりてせりたり。あつふふこの  
 十年のちり前秋温忠上人迂化あり。その徒弟後命と鳥有と招  
 待。後住とつちめん。成中あつりれど。兼引ぬらう。ざせむ小  
 なるうくわりらん。去年の神月。まへ入生とつちく二人の徒弟をわく下  
 小越は且く弘経寺小橋居。こ小ゆる玉の春むらぬふ。既小  
 生ふる。ぬさる。福小右忠つへ。男清三郎と近隣の郷人二三人と洋く。  
 経寺小結まづ町。小本尊の仏を洋く。さく人よ計。  
 らぬ。小鳥有和尚と申。聖僧ありせらる。これの同生村。農夫小織  
 越と名づ。それの男。法恩寺の村長清三郎と。さくめどもあり。願

しれり。あつり。あつり。ゆよ。のより。よ。小。と。せ。あ。と。ゆ。え。入。る。ま。へ。鳥。有。寺。  
 對面あり。作。小。名。を。同。了。と。さ。さ。ら。す。れ。汝。一。家。を。清。度。と。せ。死  
 因縁あり。と。を。り。く。去。年。の。冬。さ。ら。ぐ。近。江。より。来。せ。り。ま。り。れ。と。も。あ。り。二  
 三日を。未。ぬ。る。十。日。の。午。後。と。れ。宿。川。の。ほ。ら。り。小。出。へ。汝。本。日。維。だ  
 り。の。と。お。く。と。の。岸。小。俣。彼。処。ま。近。と。り。締。り。け。る。草。庵。の。汝。も。あ。り。  
 其。処。小。到。ら。ば。菴。の。後。る。小。松。の。中。か。く。ろ。ひ。て。い。ふ。小。悲。しく。忍。が。た。る。と。  
 える。と。も。あ。り。お。ま。る。度。と。れ。機。小。臨。と。て。ひ。つ。と。か。へ。と。示。し。り。  
 子。心。の。清。三。郎。亦。も。い。ま。づ。一。言。も。縁。由。と。ゆ。え。の。げ。さ。る。よ。和。尚。の。  
 り。と。精。しく。説。示。し。あ。る。豫。く。より。賞。期。し。く。符。あり。と。あ。り。い。  
 と。不。思。議。も。も。と。け。ま。づ。一。後。も。及。び。こ。ろ。果。く。ぬ。り。る。と。本。日。  
 り。も。あ。り。つ。と。と。清。三。郎。と。も。小。病。つ。と。ま。る。女。児。さ。ら。扛。抱。た。る。

細川の岸辺に到り鳥有和尚の教小する。小松が中身を屈め、今うとまの程は、彼此の老幼男女の成付へて、手信の信、らば彼処に赴いて、彼和尚の法験をまうんと、罵めりり。寺が淵のほとり小。去年の冬より、假初の締びりける草の戸、柱細く、小若漏る月友と、つもの、いりある人ともあられ、人小見え、只日とあく夜とあく、讀經の声の、澄らる。いと殊勝げ、ゆえり。廿一もあれ、三月十日の亭、午十六部の妙典を納て、つる回、圓の修行者、及高ず、小脊す。鉦うちるり、寺鳴ら。河原小と、来る向ひより、これもある、寺打る、修行者菴のほとり小、と礮と、ひる、不審やあり、是首より、笠の裏と、覗んとすれば、彼方の、背向、避、又彼方より、んとすれば、是首も、と傾け、と、

まらぬ、あひて、二歩、三歩、行らひつ。ゆるとも、小湯杖を、と、つ、と、西入、玄冬、小あり、むや。この、世の、と、左、出つ、むや。と、む、む、と、信、え、う、ひ、う、く、及、及、抗、あ、う、と、間、近、く、す、と、對、ひ、と、左、出、つ、と、赤、と、む、と、や、を、れ、ま、又、昔、が、妻、玉、芝、を、集、ひ、ま、と、の、日、う、後、んと、と、く、その、患、苦、を、強、く、と、ど、も、時、至、う、と、れ、の、理、會、世、の、中、心、小、形、あ、く、お、ぼ、え、く。この、葉、葉、家、を、出、た、の、優、婆、塞、と、寺、拾、と、遺、恨、の、と、以、終、ん、時、あ、う、う、十、年、の、ま、り、遠、離、り、る、故、郷、ま、く、ひ、あ、ひ、ね、の、優、量、華、の、を、ま、ぐ、く、勝、負、を、決、ま、よ、臆、と、う、と、つ、れ、ま、け、の、權、と、返、呵、と、吟、笑、ひ、この、物、も、や、程、小、世、を、妻、の、仇、を、れ、む、と、十、葉、惟、胤、を、取、用、せ、れ、息、女、田、系、姫、奴、妻、の、い、れ、小、世、好、計、く、田、系、を、誘、引、墨、田、川、小、押、投、め、く、その、金、奴、棄、ひ、ま、む、と、程、程、と、これ、を、あ、る、と、い、と、も、世、既、に、羽、生、材、を、逐、電、と、往、方、ま、れ、



水  
の  
く  
ろ  
み



草  
の  
く  
ろ  
み

ふ  
き  
の  
く  
ろ  
み

新  
月  
の  
言  
ひ



草  
の  
く  
ろ  
み

権  
々  
カ  
ン  
エ  
ラ  
イ  
ヅ

多在三八對の上は攀登して勝負つくと見物まをのり体いと晴かまう  
よたせつ権く承の一足も退むる又は数々処の深も又負ひて全身鮮血  
踏こもく戦ふほど吐嗟相殺あへりとうえたる折も替る証鼓音  
と絶く。

後撰集

つゆもわがくどぬりの夏虫の一人續き身とくあはれを思ひたり

と打吟い諸折力をささし固めぬかと思えて年の終四十ありある尼入河加  
桶小華を挿九卒卒都は女を携つて菴の中より立物か共は彼処を信とせり  
て前小すくも一人の尼目今打あつる刃の中一件の卒都は女挿立つて  
と遮つて苗もか又一人の尼走つて桶の水を汲りけり口の血泣あつて洗ひ流  
ととを左も権く承もつてえればあひつほどこの尼の殊難と田系姫あり  
たれがわがくどぬり怪しき血気挽くも小撲地と齋居小せりたりけ

そとのとた二人の尼替然と落涙し無慙する互よあはれく人を恨を頭小戴  
よりもあは消易ぬ身よりあつと後世のみあつと疎く形の優は女塞心の悪鬼  
解まつ移まぬくさぬ川よりうね名のと流るともあられとい維がやすべらう悲  
のまぬ川と墨田川原の奸計小死まづつるこれい鳥有和尚小助られ因果  
の理を示されより忽地は非度心さぐく和尚の弟子とありて殊難はは名  
単到真入とありり田系は単底真出とありり共よは別は田小住は佛小住  
るの外とえく仇ありとよとあつて浮世の善悪を忘るる死をりたりり  
憎し恨いとあつる惑ひも軒端の桶ちつと移れ人の終焉と入りより今  
忽地は困悟りりあつる小去年の冬も師の東行いあふ小伴れとふま  
あつて執事い人よつとえど今亦舊は縁一人の生死の際も小構らるる  
師の示されり言の嚴あつ小よれりあつて怪とあひとて幾とあれは甚中





田系の両字と合されば累とある。世過世の悪報因果の狀を既の  
 名小顯れらる。経小のぞや。一念菩提起菩提心勝於造五百千塔。今也田系  
 娘煩悩を新離して正覺を歸す。累が成佛疑ふと示る。ゆゑの論  
 微妙して衆人の心耳を澄ましとせしむる。そのと久清三郎。おとく  
 すと生ず。疑ひなき。あつれど。珠雞が家をまどひ。一と久清川小鬼の哭  
 言ゆえ。動せがその処。備死するのあり。小御人本社を掃く。名佛を建立  
 跡町。小吊り。そのあやと止。累が推た。その川よ。厭鬼れ。或の  
 珠雞田系姫の冤魂。累と小末。して。草積を殺し。さ。心。二  
 へ。今。世。小。存。命。る。が。つ。る。怪。き。あり。と。不。審。は。あり。と。中。せ。る。  
 鳥有世元。と。思。ひ。ある。清三郎。伊。珠。雞。の。須。川。小。投。り。と。あ。ふ。小。よ。の  
 と。鬼。魅。罔。面。と。れ。小。假。并。と。と。き。り。り。郷。人。ホ。假。が。た。追。善。し。と。の。冥。を

陰のうと。このあやとびさる怪とあり。常言小。疑心暗鬼を生むと  
 あり。田系姫のむも推して倍と。清三郎のむもさ。群集の郷人  
 麻非とも。嗚呼と感して止らる。珠雞も田系姫も。法義とゆく。小  
 と。鈍。く。寔。小。女。の。罪。障。あり。影。の。人。と。苦。し。む。る。と。う。り。と。と。痛。歎  
 へ。鳥。有。赤。肉。と。と。あ。も。と。れ。と。仰。ま。ふ。二。人。の。危。と。と。と。え  
 九品佛に擬へる。卒都波女と河原小押ま。衆人齊  
 これと。小。第一番の負。婦。累。亡。日。八月十一日。法。名。香  
 善。言。妙。林。第一番の山梨印。幡。第二番の野。三  
 第四番の山梨。治。部。第五番の玉。芝。第六番の  
 草。積。第七番の織。越。と。尤。歩。第八番の西。入  
 權。と。五。第九番の。平。亡。日。は。名。米。心。と

合仰





打日、昇院、勿、吾、心、之、



單到真入

烏有和尚

單派直天出

与及の人

清之弟

清之弟

新集解月才言卷之五



清法の  
必ふら

千葉正胤

かゝる文は

西入権之丞

此紙載出天得脱拔苦与樂の乃小鳥有和尚の令を辱して弟子千葉  
氏の女児單底真出尼田糸姫織越氏の奴妻單到真入尼は名建建所  
まきり。實九本の平部は女の功德より。天魂九品の浄土小生どんどの  
疑りあしきりりる追薦あり。くして鳥有和尚の清三郎夫妻小仰り。く  
近くびより。彼人面磨小ら對し加持しぬをの偶小。

假作真時真亦假

無為有處有還無

山田ちる素山子小所乃あるれともありと母の鹿もりより  
南無阿弥陀佛。有そ阿弥陀佛と称名の声の水晶の念珠をりて拂ぬ  
さく人面磨。立比小跡く愈信須川の水逆巻く。一道の白瓦隠くとまのほ西  
小麻非て銷矢々々の奇特候るる良賤。その冤魂得脱とて散動つり  
とも小念仏してまじり。が後の鳴も止む。与尤もつ権と丞へのとあすも。只頭を低

く。死せるがどくもてのりるが忽比小天をうら仰り。数回嘆息し。か惡業の  
あれも契あれいふ小臨り。微妙小は小あひりる。この決を釀て縁故ハ  
母とそれ小あり。仇も怨も是すを。刺ちかふ。げ。理と互小り。けり。正胤ハ  
正胤をのれ苗よと仰まれ。家隸ホ走りより。て。右小引りけり。正胤ハ  
くび彼二人は對ひて。それる。く。六年己前山梨印幡が亡魂の近小よ。推  
く丞が隱匿をまるといふ。追捕せり。父の恨をせ小ら。れ。を。厭  
る。これ。天綱遂小漏る。守。その子金五郎。其の罪を。村落小深泊  
り。且今。小未。れ。の。印幡が悲し。清との。や。時。日。を。置  
つ。私。經。寺。未。訪。鳥。有。和。尚。小。謁。して。田。糸。姫。積。り。を。審。小。あり。れ。  
ば。か。妙。恙。る。世。亦。既。小。先。非。を。悔。と。な。か。く。責。る。小。足。り。と。い。ふ。家。  
度。い。心。小。ほ。これ。は。昔。権。丞。が。田。糸。姫。を。流。す。と。尤。也。小。殺。さ。る。

謀一と見彼小彼でる衣服と太刀あり。その夜と九郎の墨田川原小段待て  
 一成鳥有和尚潛小藏ゆ。今も存所持とてけしむ。れを得く推し未しり。  
 与九郎つのが好と水中小投入とてその金を奪ひ去りし。かれ共小走らるるに  
 九郎の二刀成仏とて。覺期早とていふも。抜挿及び口の下の権とて  
 さしと九郎の太刀防びとても助るまに命代んとて九郎の命死んぬ。この世の  
 世に出る。夫郎といふ声も。かゝる戦く苦痛の果は小握と固くりし。刀尖かく刺  
 る。群集の老弱とれをさす。異口同音小念仏とて与右出の悲歎小堪む。件  
 の刀ととらりと鬚とて押切む。清三郎夫婦も後れとて共は改鬚を切捨て  
 る。鳥有和尚もやんず。なごる人の聖僧の引接小す。既小清果を  
 ぬれど生残とる吾侪が罪障のいろう。威せられたれは芽子とる。

めひて後世成故のせありと希へ鳥有和尚とて。その夕更に仔細  
 脈授はとまへと應あふ。彼三人又ヤス。さく鬼病とて。既小死とて。う  
 る身のみと後小命助れば。れを聖僧小進とて。人とる。後尼とる。  
 うぐく佛息小答へとヤス。鳥有頭とら。掉す。その甚謂は。さく  
 か父子右出の織越氏を冒し。その家を断絶し。わ。孝と義の二  
 小缺ん。れいも。不義不孝の行者。仏菩薩の冥助あり。をせ。彼子  
 とて。成長の後堀を招て。その家相續あり。その功德土あり。その  
 勝とると説諭。さく正流を誘引て。弘経寺小あり。その後。二  
 寶父權とて。養父と九郎つが亡骸を法藏寺小葬。その土。入。西  
 尼を敬ひ待とる。君のぞく親の如し。次の日とて。打つ。弘経寺  
 赤。鳥有和尚對面ありて。与右出つ。法名西入とあり。清三郎





景  
 日  
 八  
 解  
 月  
 夕  
 言  
 行  
 三  
 子

平ら菊をうらまのさき祿をうとし

菊合将 杉風

かきぬらそハ重菊を子孫

名なきふた 曾良

変化とそ月の本ありさう

風の音 ちせん

縮妻のやきものめを奈きふを

西 其角

名らうやきりあるとをむく

水の上 嵐雪

お蟻をう川 誰う後の虫や

捨卒初時 羅文

幽霊乃出るおとる形

脱存 梅柯

我をあた能仏言 神ノ言

月 任口

新撰月言卷二五 月言 任口

江戸

曲亭馬琴著



葛飾北齋畫



京師 井上治兵衛

大阪 市田治郎兵衛

刷人

○曲亭先生著述目錄 浪華 文金堂繡梓

新累解脫物語

この書ハ死灵物語を増補し、累が傳をくわくある事とある因果の道理を全くと雜蒙を警むるの作也物語之 全五册當春出版

復讐 小説 月氷奇縁

享徳年中近江の孝子熊谷俊文といふもの父の仇を殺して絶たる家以與一なる事以しりて 全五册先達方賣りかゝる

俳諧歳時記

四季の詞を注釈を審みしりて、只そのまゝのみあり、後これ以讀と記を和漢年中の行事以あらべし 全二册右み全し

俳諧人物志

この書ハ貞徳芭蕉以下當時名高き俳諧師の畧傳を輯録し、且その作書に至る序を審み記す全二册近刻

雞肋 會話 瓶 瓶 瓶 梅

全本五册 繪入よき本 來春出版

文化四年丁卯春王月發兌

江戸通油町

鶴 屋喜右衛門

京 御幸町好小路下町 菱 屋孫兵衛

同 寺町二條下町 鈿 屋安兵衛

大坂心齋橋筋唐物町 河内屋太 助

書坊

新累解脫物語

三

